

今日は、息継ぎということについてお話をしてみたいと思います。

水泳にしろ、歌を歌う場合にしろ、息継ぎというものは絶対に必要になってまいります。

息を継がなくても大丈夫な時間は、人によってそれぞれ異なります。実際に、かなり長い時間、持ちこたえられる人もいますのであります。

この息継ぎというものは、速記の検定においても大事な要素なのであります。問題文を朗読するときにも、必ず息継ぎは行われます。速記をしている側としては、実はそこがチャンスなのであります。少しぐらい書くのが遅れていても、そこで一気に挽回できる可能性があるわけです。

必死に速記をしていると気づきにくいかもしれませんが、時には、その「間」を意識した練習をすることもいいと思います。

次に、六月ということについて少し考えてみ

たいと思うのであります。

六月については、「水無月」という言い方もあります。梅雨の時期であるのに、なぜ水がないというような表現をするのでしょうか。

これについては、実は諸説あるようであります。私は、梅雨が明けて水がなくなるからそう呼ばれるのだろうと思ってきました。ところが、その説は少数派であるとのことでもあります。

いわゆる旧暦の六月というのは、今の暦でいいますと、六月の下旬から八月の下旬頃となります。真夏のかんかん照りの暑い日々が頭にかぶわけであります。田舎では、田んぼから水がなくなってしまう時期とも重なるのであります。

それが水無月の語源だと私は考えたいのであります。皆さんはどうお考えになりますでしょうか。

(丁)

## 空読み用

(5級・3級)

最初のお話をします。

先日、けがをしてしまいました。そして、その治療のために、近くの病院にしばらく通うことになりました。待合室には、大人<sup>㊦</sup>に交じって、子供たちもたくさん来ていました。恐らく、クラブ活動をしているときや遊んでいるときに足をひねったりしたのでしよう。<sup>㊧</sup>

そのときに気がついたことがあります。彼らは、順番が来て名前を呼ばれても、返事をしないのであります。それは、恥ずかしいとか、いろいろな理由があるのかもしれませんが、しかし、こういうところからも人間関係というものは始まりました。<sup>㊨</sup>